

進級したことや長期休みを経て友達と再会したことを喜び、年長児の生活を楽しむ子どもが多い。

進級初日に、在園児が遊戯室に集まり、進級式を行った。園長先生が一人一人の名前を呼び、子どもたちは嬉しそうに元気に返事をした。式が終わってから、「年長さんだけにお話があるんだけど」と、園長先生からお話があった。「幼稚園で1番楽しく遊んでください」「1番ニコニコしていてね」「1番友達と仲良くしてね」という内容であった。それを聞いて子どもたちは声を揃えて元気よく返事をした。

保育室に戻ると「1番お兄さんお姉さんやもんな」「幼稚園で楽しく遊ぼうな」など、園長先生の話聞き、幼稚園で最年長になったことを、それぞれが受け止めて、感じたことや思ったことを口々に話す姿が見られた。

- ・年長児の生活にイメージをもち、期待を膨らませる(進んで参加する態度)
- ・年長児なったことを自覚する(進んで参加する態度)



受容性

年長になった喜びを感じたり、自信を持ったりして新学期のスタートを迎える。

責任性

年長になった自覚を持ち、園生活に臨む。

クラスとしての目的に向かって取り組む面白さを実感し始める。

自分の思っていることや考えたことを自分なりの言葉で意欲的に伝えようとする姿が多く見られるようになってくる。

4月21日に、5月9日に遠足で若草山に登ることを子どもたちに伝える。幼稚園からも山が見えるので、話を聞いて早速、園庭に出て土山に登って山を見た。「あんな高いところに登るの?」「えー楽しみ!!」「疲れちゃいそうだけど」など、山を見てそれぞれ感じたことを口々に話した。また、保育室に入ろうとした時に、その日から上げている鯉のぼりを見て「この鯉のぼりって山から見えるのかな?」と、ある子がつぶやいた。担任は「こんなに大きいけど山からは見えなかったよ」と伝えると、「じゃあ山からも見える鯉のぼりをつくろうよ」と、その子がその周りにいた子たちに提案する。それを聞いて、全体にも知らせると「作ってみたい」となり、鯉のぼりを作ることになった。

保育室に戻ると、「あんな高い山登るんなら足をトレーニングしないとね」と、話す子がいた。それを聞いて「そやな頑張って鍛えないと」と、話す。担任が「トレーニングってどんなことするの?」と、聞くと、「走ったり、ジャンプしたりする」など思いつくことを口々に話す。それを聞いた子どもたちは、翌日から、思い思いに脚をトレーニングし始める。園庭の真ん中でストレッチや体操をしたり、幼稚園の中を何周も走って回ったり、段差があるところを登ったり降ったりなど、それぞれが思いついたことをやってみることを楽しんだ。

鯉のぼりは、どのような鯉のぼりにしたいかを話し合うところから始めた。「大きな紙で作ったら?」「紙だと濡れちゃうけど」「そしたらゴミ袋を繋げていったら濡れないよ」と、つくる素材の話をしたり、「色はたいようぐみだから黄色にしよう」と、色の話をしたり、子どもたちが考えて話したことを、クラス全体にも広げながら話し合いが進んでいった。担任も「遠くから見えるようにするには、キラキラ光るものをたくさんつけるのも良いと思うよ」と提案し、山から見えるような鯉のぼりをつくるという目的に合わせて提案も行った。後日、大きなビニール袋を用意し、子どもたちとキラキラのカラフルなテープを飾ったり、ホイルカップを飾ったりして鯉のぼりを作った。

- ・遠足への期待感をもち、自分の思いや考えを言葉にする(未来像を予測して計画を立てる力・批判的に考える力・コミュニケーションを行う力)
- ・友達の意見を聞き入れようとする態度
(コミュニケーションを行う力・他者を尊重する態度)
- ・目的に向かって、自らやってみようとする態度
(批判的に考える力・進んで参加する態度)
- ・友達と目的に向かおうとする態度(他者を尊重する態度・進んで参加する態度)



責任性

自分たちで決めたことをやり遂げる。

受容性

やり遂げた達成感や充実感をもつ。

連携性

色々な友達や保育者の考えに触れて、自分の考えと比べる。

連携性

友達や保育者と一緒に頑張る良さを感じる。

大人数で遊ぶ遊びを好んでするようになりー（中略）ー自然とクラスの色々な友達が混じって遊ぶことが多くなってくる。

進級してすぐから、気の合う友達同士で年中の最後にしていた遊びを楽しむ様子が見られた。その中でも、鬼ごっこやしっぽ取りなど、大人数で楽しめる遊びをしていると、自然と人が集まってくるようになり、気の合う友達同士のグループが2つ3つ寄り集まって遊ぶ姿が多く見られるようになってきた。鬼ごっこでは、これまでかかわりの少なかった友達同士が鬼になった時には「僕はあっち側から追いかけるから○ちゃんは森の方からお願い」と、考えた作戦を伝えたり、「やった！鬼の勝ちやな」と顔を見合わせて喜んだり、「鬼きてない？」と逃げている側も友達と情報を交換したりなどして遊んでいた。

連携性

たくさんの友達と関わり、色々な思いや考えに触れる。

受容性

仲間入りを認め合い、気持ち良く友達と遊ぶ。

- ・これまでの人間関係を基盤に新たな環境・環境の変化に順応しようとする
(つながりを尊重する態度・進んで参加する態度)
- ・自分の考えや思いを自分なりの言葉にして伝えようとする態度(批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力・コミュニケーションを行う力・多面的、総合的にみる力)
- ・多くの友達と一緒に遊ぶことを楽しいと感じ始める
(他者と協力する力・つながりを尊重する態度・進んで参加する態度)



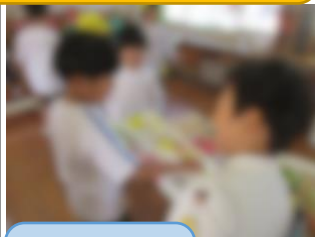
自分の思いや考えを言葉にして気の合う友達はもちろん、クラスの周りの友達にも伝えたい、伝えようとする姿が見られるようになる。

A 児は自分の考えたものを、保育室にある廃材を使って作ることを毎日楽しんでいました。この日は、キッチンペーパーやラップの芯がたくさんあったこともあり、それらを半分に切り、ビー玉を転がす装置のようなものを1人で作っていた。その様子に気づいた、ピタゴラ装置を別の場所で作っていた B 児と C 児が「A ちゃん何作ってるの？」と興味を示し寄ってくる。A 児は自信に満ちた表情で「激ムズ装置だよ」と答える。「え？何それ」とそれを聞いた2人が返す。A 児はビー玉を持ってきて「こうやってここから転がすんだよ」「あーテープにくっついたらダメー」と、実際にやりながら2人に一生懸命説明する。それを見た B 児は「A ちゃんやっていい？」と聞くと、「いいよー」と笑顔で答え、「激ムズやで」と B 児に声をかける。

受容性

友達に認めてもらうことを自分の自信につなげる。

- ・自分のやりたいこと、思いをしっかりもち園生活に臨む(進んで参加する態度)
- ・友達のしていることに興味を示し、関わろうとする態度(コミュニケーションを行う力・進んで参加する態度)
- ・友達の言葉を受け、それに対して、自分の言葉で伝えようとする態度
(コミュニケーションを行う力・他者と協力する力)
- ・友達と楽しさを共有しようとする態度(他者と協力する態度・つながりを尊重する態度)



自分がしたい思いをはっきりともち、遊びに向かっている子どもがほとんどである。

A 児と B 児が保育室でピタゴラスイッチの装置を作って遊んでいる。担任がその場に来たときには、保育室の北側の窓から、南側の出入り口まで雨樋が長くつながっている状態であった。B 児がその先にカプラを立てて並べ始め、それを見て A 児も一緒に並べる。レンガの上にカプラを立てるのは安定が悪く、何度も倒れてしまう。

担任は「こんなものがあるよ」と声をかけ、幅のある小さな積木を持ってくる。A 児も B 児も「これいいやん」「ドミノみたいやな」と言って、小さな積木を並べていく。

B 児は曲げようとしたり、「あっちのお山までいこうよ」と、長くしたいことを A 児に伝えたりしながら遊ぶ。A 児は「無理だよ」と言いながらも、B 児の様子を見ながら一緒に並べる。B 児は「ドミノってこうやってこうするねん」と言いながら、二つ並べて、だんだんと広がっていく方法を試そうとする。A 児はここでも「無理だって」と、止めようとするが、B 児は「いや、できるって」と、実際にやってみせながら、積み木を並べていく。

「どこまでするの?」と、担任が尋ねると「ここまで(レンガの部分を指さして)」と言って、最後まで並べ切った。

A 児がスタートからビー玉を転がすと、走ってついていき、ドミノの部分につくとその行く末をじっと見つめながら、最後まで到達すると A 児と B 児の2人は飛び跳ねて喜ぶ。



・自分の考えを言葉にして伝える

(批判的に考える力・コミュニケーションを行う力)

・友達对你的考えに対して自分なりの考えをもつ

(批判的に考える力・多面的、総合的に考える力・コミュニケーションを行う力)

・友達と協力して成し遂げる

(コミュニケーションを行う力・他者と協力する力・進んで参加する態度)

・粘り強く、最後まで取り組む(進んで参加する態度)

受容性
自分たちのやりたいことを存分にできることを喜ぶ。

連携性
気の合う友達と協力する。

責任性
自分たちで決めたことを最後までやり遂げる。

